



研究テーマ：度合いが関わる構文の研究

研究者：東寺 祐亮

TOJI Yusuke
(工学部 准教授)

【研究・開発の目的】

人間の認識というものは、さまざまな情報が組み合わされた構成体である。どのような情報からどのような認識が形成されるのかという問題にせまる鍵の1つは、文において、それぞれの語がどのように意味を構成するのか、その構成方法を明らかにすることである。本研究の目的は、その構成方法の解明を手掛かりに人間の「度合い」の認識がどのようになされているのかを明らかにすることである。

【研究・開発のきっかけ】

「度合い」をさまざまな形で表すことができる。たとえば、「強さ」を「とても強い」と表現することもあるが、「誰もかなわないほど強い」と表現することもある。一見、大きく異なるように見えるが、「度合い」を表す仕組みには共通点がある。単語一つ一つが持つ機能を明らかにしていくことで、その共通点を探り、どのようにして人間が「度合い」を認識しているのかを明らかにしようと考えた。

【研究・開発の概要と特色】

文を構成的にとらえようとする生成文法の観点から分析を行っている。これまで、「食べるほど太る」のような比較相関構文、「誰もかなわないほど強い」のような程度のホド構文、「食べすぎた」のようなVスギル構文を中心に分析を進め、度合いが表される個物が文法性に影響を与えるということを提案している。

【今後の課題】

まず、度合いが関わる他の構文に研究範囲を広げていく。ダケ、ヨリなどの分析を進め、どのように度合いが認識されるのかを明らかにしていく。次に、母語話者の容認性が、構築したシステムが予測する文法性を反映しているかを調査する。EPSAシステムという容認性アンケート方法で調査を行う。

【今後の展開】

これまでに得た文法的知見を利用して、教育方面に展開していく。日本語母語話者だからといって、場面に応じて適切に言葉を使用できるわけではない。言葉の使用をサポートする教材の研究を進めていく。また、現在参加している日本語教育用の辞書作りプロジェクトを進めていく。

論文掲載・知的財産取得情報：『日本語文法』 など

活用した助成金、産学官連携実績：九州大学基金独創的研究支援（2014-2015）／学術振興会科学研究費助成事業若手研究（2018-2021）

【地域・企業へのメッセージ】

企業の皆様の力となる学生に、日本語の指導を中心に関わっています。言語学の裾野は広く、文法研究のみならず、方言、言語獲得、言語教育などさまざまな領域があります。言葉について、何らかの形で企業の皆様と関わることができればと考えています。